

巻頭言

副会頭 伊藤惣一郎

新しい治療法や医学の新知見に焦点を当てた研究・発表が医学界に於ける中心的な関心事であった時代がこれまで長く続いた。また、医学系学会と社会福祉系学会との接点も極めて薄いものであった。

一方、世界で類を見ない速さで超高齢社会を迎えている昨今の日本では、退行変性を主因とする疾患や障害と長くつきあっていかなければならない時代になっている。

そして、その予防や重症化防止に加え、老化という自然現象自体とどう対話しながら、生活の質、更には生きる質を確保していくかという哲学的要素を含んだ問題にも真摯に取り組まなければならなくなって来ている。その為にも既に繰り返し云われていることではあるが、保健、医療、福祉等の専門分野もそれぞれの垣根を低くし、生活者の視点を加えて総合的に検討・討論できる場が必要であり、年々その重要性は増していると感じるところである。

それら関係者の密なる連携と情報交換の場とする事を大きな目的の一つとして立ち上げられた新潟医療福祉学会も昨年11月30日に第3回学術集会を開催するに至った。

この学術集会では、新潟大学医歯学総合研究科口腔外科学専攻・摂食環境制御学講座助教授の植田耕一郎先生に「摂食・嚥下リハビリテーションと誤嚥性肺炎予防～統合医療の取り組み～」と題して特別講演をしていただくことができた。その講演内容も本誌にご投稿頂いた。

先生は例えば脳卒中後においても齲歯や歯周病、義歯不適合などは、運動麻痺や高次脳機能障害と同等に全身疾患後の重複障害であるとして、人間が生きていくために必須な食事摂取における「摂食・嚥下障害へのアプローチ」の大切さを強調された。また西洋医療に東洋の伝統的療法を融合させた統合医療という理念を概説され、その摂食・嚥下障害への応用についてふれられるとともに、先進的な取り組みと豊富なご経験に基づいた口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防についても詳しく教えていただいた。

ここに新潟医療福祉学会誌第3巻2号が「社会福祉学特集号」として編纂発刊された。本号では、第3回学術集会での講演と発表論文の他に、社会福祉学関連の原著論文を多数ご投稿頂き、これまでにない充実した内容の学会誌となった。論文の内容は、社会福祉教育の日米比較から、新潟県における行政的かかわり、市町村レベルでの実践活動の現状、さらにソーシャルワークの実践方法について等まで、幅広い内容を含み社会福祉学特集号としての特長をしっかりと出して頂けたと思う。

ここに学会員を代表し編集関係者のご苦勞に感謝するとともに、お手元に第3巻2号をお届けする。

伊藤惣一郎 新潟医療福祉学会 副会頭

[連絡先] 〒950-3304 豊栄市木崎字尾山前761番地

TEL : 025-388-2111 FAX : 025-388-3010

E-mail : hirhpito@aiko.or.jp